

発災後の応急復旧・ ボランティア活動等について



平成27年 1月29日
内閣府（防災担当）

1. 平成26年災害におけるボランティア活動について

甚大な土砂災害の被害を受けた広島市及び丹波市における、災害発生後のボランティア活動について

2. 被災者の心のケアについて（広島土砂災害時のDPAT活動）

広島土砂災害の際に出動した災害派遣精神医療チーム（DPAT）の活動状況等について

平成26年災害における ボランティア活動について ～ 広島市及び丹波市の実例 ～

広島市における災害ボランティアの活動

- 災害ボランティアセンターから派遣したボランティア 延べ約4万4千人（※12月末現在）
- その他、被災者の親戚や知人、職場の同僚を始め、多くの方々が活動
（中には、ボランティアセンターの運営を手伝っていただいた事例（調整役の専門ボランティア）、重機を持参して活動したボランティア（機材を有する専門ボランティア）もいた。）
- 活動内容・・・宅地や周辺道路の土砂撤去等（土砂災害特有の流木や巨石の処理も実施）



多くの方々の御協力により、土砂撤去等が急速に進みました。

発災からの経緯

8 / 2 0 災害発生、広島市社会福祉協議会を中心に広島市災害ボランティア本部を設置

8 / 2 2 区社会福祉協議会が、安佐南区及び安佐北区に区災害ボランティアセンターを設置

8 / 2 3 ボランティア派遣を開始

※活動内容は、宅地や周辺道路の土砂撤去等

※初動時期は、悪天候による中止、人命救助活動や重機による作業との調整等、ボランティア活動が制限されたことから、県内からのボランティアのみ受入

※そうした状況下にあっても、最も多い日（8/30（土））で3,265人がボランティア活動に参加

9 / 4 県外ボランティア(団体)の受入、派遣を開始

※すべての避難指示の解除等に伴い、ボランティア活動地域が拡大。
急速に土砂撤去等が進行

1 0 / 1 広島市復興連携本部、区復興連携センターに移行、県外ボランティアの受入終了

※大人数による土砂撤去ニーズは収束、少人数ボランティアによる家屋清掃や専門ボランティアによる相談など被災生活から日常生活に戻すための支援にシフト

- 県、各市町及びブロック等の社会福祉協議会
- 広島市災害ボランティア活動連絡調整会議構成団体（広島市役所含む）など

運営のための
人的支援・物的支援



区災害ボランティアセンターから派遣したボランティア以外にも、被災者の親戚や知人、職場の同僚、学生を始め、多くの方々が自主的に活動（民間ボランティア）

区災害ボランティアセンターから派遣したボランティアは延べ約4万4千人に上る（平成26年12月末現在）

災害ボランティア活動への支援

～広島市災害ボランティア活動連絡調整会議～

1. 目的

- (1) 大規模災害時におけるボランティア活動の諸問題の検討及び相互の連携強化など災害ボランティア活動の環境整備
- (2) 災害時のボランティア活動の効率化

2. 構成団体

(社福) 広島市社会福祉協議会、広島市民生委員児童委員協議会、(公財) 広島YMCA、(一社) ガールスカウト広島県連盟、(一社) 広島青年会議所、連合広島広島地域協議会、(特非) ひろしまNPOセンター、SeRV広島、(特非) コミュニティリーダーひゅーるぽん、(特非) ANT-Hiroshima、カトリック広島司教区平和の使徒推進本部、広島県災害復興支援士業連絡会、生活協同組合ひろしま、(公社) 青年海外協力協会中国支部、(特非) もりメイト倶楽部Hiroshima、(特非) ひろしま自然学校、広島市 など 計22団体

3. 活動内容

(1) 平時

ボランティア活動支援等の情報交換、災害ボランティアセンター運営シミュレーション参加など

(2) 災害時

ア 災害ボランティアセンター運営 (スタッフ派遣、活動物資提供等)

イ 被災状況及び支援状況等の情報交換

災害ボランティアセンターの取組状況

1. 取組状況（11月30日時点）

- ・活動者数（延べ人数）：43,390人（安佐南区：29,330人 安佐北区：14,060人）
- ・事前登録者数※：231人（安佐南区：183人 安佐北区：48人）

※10月までは随時受付（当日受付）。事前登録制は11月以降に開始している。

2. 関係機関等の協力

災害ボランティアセンターの運営にあたり、広島市各区社協から延べ369人、市社協から延べ219人を派遣し、中国ブロック県・市社協から延べ278人、全国ブロック社協では四国、九州地区を中心に延べ92人、広島県内からは県社協が延べ192人、市町社協から延べ290人と多数の職員派遣をいただいた。また、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（主にボランティアセンターの支援を担当）から延べ234人、災害ボランティア活動連絡調整会議（現地のニーズ把握も含めた支援を担当）から延べ839人の派遣をいただいた。

（1）人的支援

- ・ 全社協、県社協、県内市町社協、中国・四国・九州ブロック社協からの派遣職員
 - ・ 広島市災害ボランティア活動連絡調整会議の構成メンバー、社会福祉施設職員
 - ・ 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議からの派遣者
 - ・ 県外からのNPO等関係者、県内外大学から学生
- など多くの方々の支援を受けた。

（2）物的支援

市町社協、社会福祉施設からの車両貸与をはじめ、全国各地の団体・企業などからボランティアセンター運営に係る資機材の貸与・提供を受けた。

丹波市ヒアリング結果（平成26年8月豪雨）

応急復旧・ボランティア活動について

○ボランティア活動について

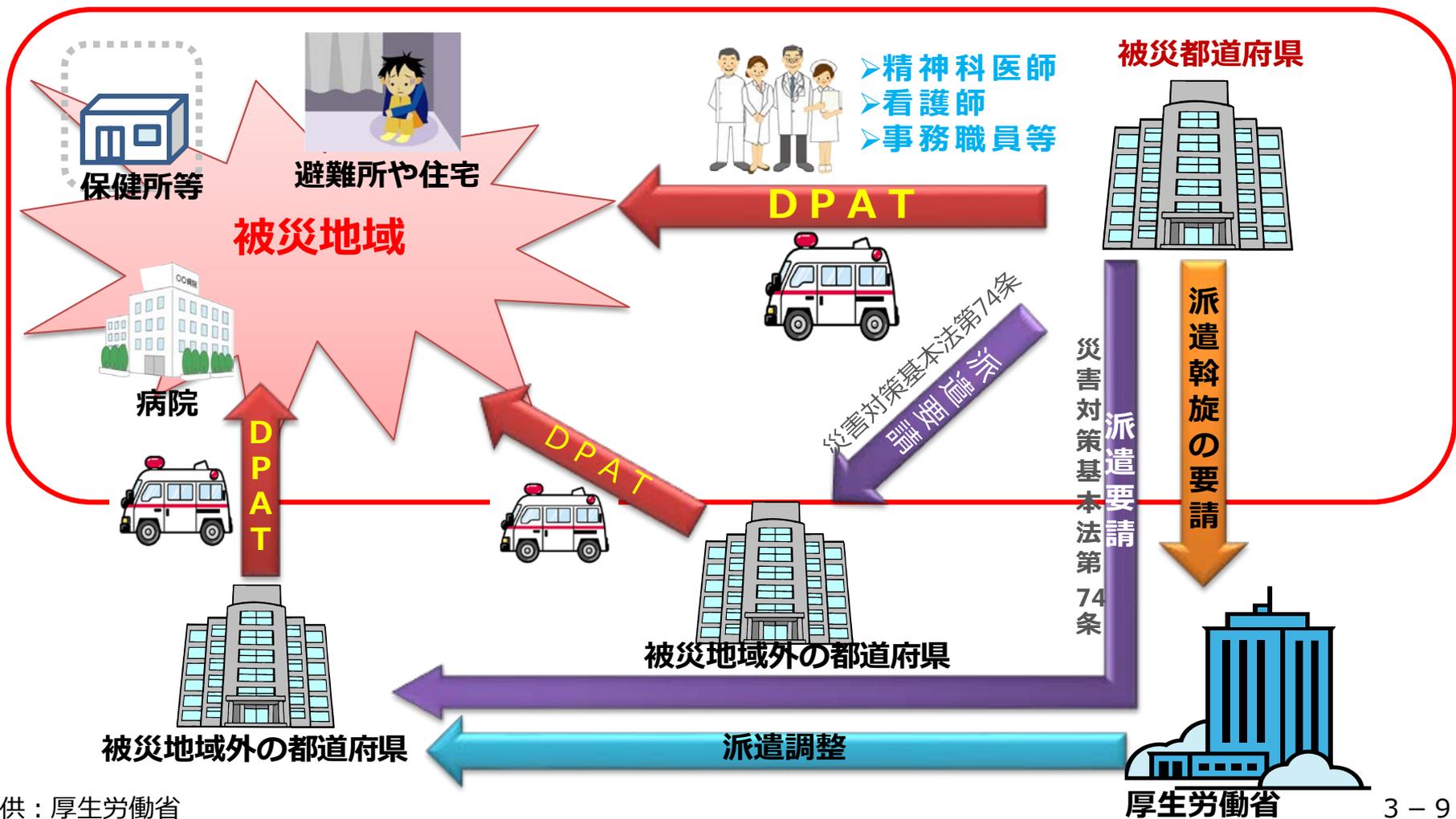
- ✓ 災害発生2日後の8月19日にはボランティアセンターが開設された。
- ✓ ボランティア間や現地との調整（状況を把握して活動）をするボランティア（専門ボランティア）の方が来てくれていて、大変助かった。
- ✓ 調整役のボランティアは本部に6・7人、現地に10人程度いた。
- ✓ 自分で重機を持参する（運転してくる）ボランティアがおり、他にも土砂を吸い出すバキュームを持参するボランティアや、流木処理を行う（それ専門のチェーンソー等を持参した森林関係の）ボランティアもいて大変助かった。
- ✓ 現地の土砂撤去（宅地内）は、自治会長に一任し、まとめてもらった。
- ✓ 当該地域出身の職員を中心に現地に張り付け、ボランティアや自治会長、土砂撤去業者との調整を行わせた。
- ✓ 社会福祉協議会（ボランティアセンター）は、ボランティアの募集とニーズ把握をして大まかな配分を決めるような仕事をしており、それを踏まえて社協のコーディネーター（応援を含める）や調整役のボランティアがより詳細な配分を決めていた。

被災者の心のケアについて

～ 広島土砂災害時のDPAT活動 ～

災害派遣精神医療チーム：DPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team)

自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの大規模災害等の後、被災地域に入り、精神科医療及び精神保健活動の支援を行う専門的なチーム。



広島土砂災害時のDPAT活動状況

日 時	活 動 状 況
8月20日 3時頃	土砂災害が発生
22日16時	DPAT派遣要請（広島市→広島県）
22日19時	DPAT出動
25日	広島県が子どものこころの問題を専門に扱う医師のいるDPATチームを新たに編成
28日	大学や精神科病院・診療所からなる「広島精神医療ネットワーク」がDPAT活動の支援を開始
30日	「広島精神医療ネットワーク」の診療所のスタッフにより構成されるDPATを新たに編成し、対応開始
9月2日	各病院のスタッフにより構成されるDPATを新たに編成し対応開始
3日	広島大学のスタッフにより構成されるDPATを1チーム新たに編成し対応開始
8日	広島県で避難所のニーズに合わせてDPATを順次派遣し（9月8日時点で9か所・延べ35回）、避難所担当の保健師から状況の聞き取りや診察希望者等への診察を行った。



広島県と広島市の打合せ風景



避難所となった公民館

（写真提供：広島県）

広島土砂災害時のDPAT対応事例

主な症例

- ✓ ささいな音や雨音で目が覚めてしまう
 - ✓ 夜中に災害が発生したら…という不安で眠れない
 - ✓ 災害によって家族を亡くし、無気力になった
 - ✓ 被災した時のことを何度も思い出し、不安になる
 - ✓ 避難所での集団生活に馴染めず、ストレスを感じる
 - ✓ 子供が悩みをもっているケースが多かった。
 - ・災害によって友人を亡くしたショック
 - ・大量の水や土砂が用水路を流れていたときの恐怖で、水自体をこわがる
- ⇒ 子どものこころの問題を扱うチームを新たに編成



DPATの相談スペース

DPAT担当者の対応

- ✓ 被災直後の不眠・不安はごく当たり前のことであり、時間の経過とともに症状は回復することを説明
- ✓ (もし症状が回復しない場合は) 専門的なケアが必要であることを周知
- ✓ 症状に応じて医療機関の紹介や保健師による経過観察を実施

※活動に当たっては、避難所に常駐している保健師にも協力してもらい、症状を持っていると思われる住民については、DPAT担当者に相談するよう推奨してもらった。(右下写真)



DPATと保健師の打合せ風景

(写真提供：広島県)